



し せい
至 誠

生徒指導部より
種子島中央高等学校生徒指導部 10月号
平成29年10月31日

交通事故 連続発生！

本校では夏休みから10月にかけて連続して交通事故が発生しました。大事には至りませんでしたが、いずれも単車による転倒事故でした。10月に入り、下校時は真っ暗です。普段、通い慣れた道ですが、暗くなってしまうと普段とは全く違うものになってしまいます。また、この時期は、ランニングやウォーキング、犬の散歩など、通行人も多数います。交通事故を起こすことがないように、交通安全を重視して下校してください。

ただし、交通事故を起こさなければよいというだけのものではありません。道路を利用している全ての人たちが、安心して、快く通行することができるよう、一人一人が自分の行動に責任を持ち、周りの人への思いやりを持って行動することが一番大切なことです。交通マナーを遵守しましょう。

二学期交通安全教室が実施されました。

10月13日（金）の中間考査終了後に種子島警察署から講師をお招きして交通安全教室を実施しました。今回の交通安全教室では、バイク事故を防ぐためのDVDを視聴した後、今年10月から鹿児島県内で義務となった「自転車保険の加入」などの内容を含めた講話をしていただきました。今回の交通安全教室で学んだように、通学路の危険箇所をしっかりとシミュレーションして、危険を予測する「かもしれない運転」で登下校するようにしていきましょう。

～通学指導係から～

（1）単車通学生確認事項

①通学用の単車は実用タイプ（カブタイプ）又はスクーターとする。

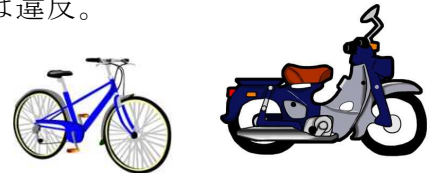
色は華美でないもの。スポーツタイプは認めない。なお、カバン置き用の荷台を必ず設置すること。また、専門業者の車体検査に合格したものに限り。

②ヘルメットの型は、白のZ型または白系のフルフェイス型とする。

風防は透明。緑色のラインを2本入れる。半ヘルは違反。

③必ず学校指定の通学許可プレートを付ける。

理由なく外して運転することは認めない。



（2）通学許可について

自転車・単車で通学する場合は通学許可が必要です。手続きをせずに、通学することがないようにしてください。また、バス停までの単車通学許可の生徒が学校まで単車通学することは休日であってもできません。

（3）駐輪場について

10月19日から駐輪場の場所に変更がありました。単車は各自に割り当てられた指定場所に整列させ、自転車は指定場所に詰めて整列させてください。場外に駐輪することがないようにしてください。

(4) 徒歩通学, バス通学について

徒歩での通学も, 周りに十分に注意して登下校する必要があります。自分の命を守ることとはもちろん, 自転車や単車, 車で通行している人たちへの配慮も必要となります。自分の軽率な行動で, 運転者に危険を感じさせたり, 不快感を与えたりすることがないように, 交通マナーをしっかりと守りましょう。

平成25年度交通安全ファミリー作文コンクール入賞作品である大西 賢（おおにしけん）さん（東京都日野市）の「手信号」を紹介します。

結婚を機に, 引っ越しをした。それまで車で通勤していた妻は, 自転車での通勤になった。家から妻の職場までの道路は, 歩道が狭く, 自転車では走りづらい。本来, 自転車は車道を走るものだが, ずっと歩道を走ってきた妻には, 車道の走行は怖いようだった。

二十代前半の頃, 私は自転車競技の選手だった。私には, 車道走行の経験がある。その経験から, 私は妻にこうアドバイスした。

「手信号をするといいよ。安全性は驚くほど飛躍するから」

これは事実である。自転車の事故が後を絶たないのは, ウィンカーがないのが大きな要因なのだ。トラック運転手の友人が,

「車の動きは予測できるけど, 自転車の動きはなかなか予測できない」

と漏らしたことがある。なんの合図もなしにモーションを起こすから事故が起きるのであって, 自転車に乗っている自分が, これからどういう動きをするか周囲に見せれば, 驚くほど事故は減るのだ。

右直事故というのがある。直進する自分と, 対向車線から来て右折する相手が衝突する事故だ。選手時代, この右直事故で大けがを負ったチームメイトがいた。時速四十キロで走る選手を, 右折する自動車がぶつけてしまったのだ。肩に大けがを負った彼は, 結局, そのまま引退してしまった。「ちょっと待ってて」と手で合図すれば, かなりのドライバーが待ってくれる。車道の左端を直進している時もそうだ。前方に停まっている路上駐車車を避けるため, 中央寄りに膨らむ場合, 右手をピンと伸ばして「中央寄りに膨らみます」と合図すれば, ほとんどのドライバーはクラクションを鳴らしもせず待っていてくれる。手信号で自分の動きを知らせれば, 自転車事故は減らせるのだ。「自転車は車道を走行する」というルールは定着しつつあるが, それにマナーが追いついていない。ブレーキがない「ピスト」という自転車が流行したのがそのいい例だ。自転車とはいっても重大事故を起こす可能性がある以上, もっと安全走行を励行するべきなのだ。

「手で車に合図するなんて恥ずかしいね」

妻はそんなことを言っていたが, 私には「恥ずかしいこと」とは思えない。私が選手だった二十年前, ヘルメットをかぶって自転車に乗る人は滅多にいなかった。それが今では, かなり多くの人がヘルメットをかぶって自転車に乗っている。安全性が担保されれば, 大半のことは普及するものなのだ。

車道を走る時は, 自転車の自分がどういう動きをするか, はっきりとアピールする。それは安全にとっても有効な方法である。

自転車ブームでスポーツ用の自転車が飛ぶように売れているというが, これからは安全のための手信号も流行ることを願っている。

この作文を読んでどう感じましたか。交通事故で被害者にも加害者にもならないように, ハンドルを握る前に『大切な人』を思い浮かべてみましょう。